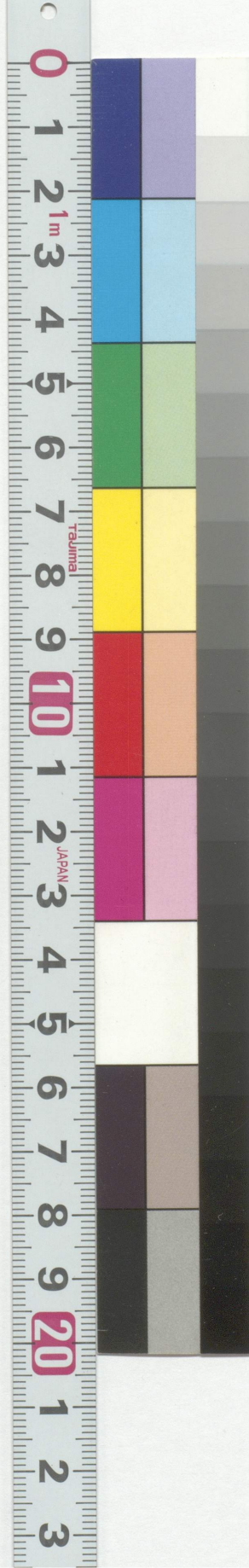


櫻花分報



第四十号
春分
...



後藤起電機生る!!

弊所は曩に

特許島津感應起電機

を創作して高評を博したり今又東

京高等師範學校名譽教授東京教育品研究會長

後藤牧太氏

の考案になれる後藤起電

機を發賣するの光榮を得たり此機亦特種の趣ありて成績佳良なること論を俟たずその構造の概要は曩に東洋學藝雜誌及現代教育にあり見て以て購買心を惹起し購ふて以て眞價を知り賜へ

島津製作所

本店 京都市木屋町二條南
支店 東京市神田區錦町一丁目
福岡市西洲

櫻蔭會會報第四十一號

會

告 目 次

會計廣告

會計報告

第五回學資貸與寄附金申込諸君

第五回學資貸與寄附金領收

第一回故黑田定治先生建碑資金領收

講

話

森先生の御話(能率の増進を學科研究上に應用すべきこと)

本會 記事

新入會員懇親會記事

新入會員氏名

主事會及協議事項



018010003822

評議員會及協議事項……………一四
事務所日誌摘要……………一五

會員客員動靜

二六

東京女子高等師範學校彙報

三〇

職員移動……………三〇

福田元當校舍監の逝去……………三〇

陸軍紀念日講話……………三一

謝恩會及送別會……………三一

卒業證書授與式……………三四

昭憲皇太后御一周年祭儀式……………四八

入學許可式……………四九

通信

信

附屬寄宿舎より……………五四

澁谷より……………五八

編輯掛より……………六〇

六〇

竹野せい……………五四

田中ふさ……………五八

會告

一、本會々費等未納の御方有之候爲め會務整理上大に不都合を生じ甚た困却致候に付何卒少々つゞにても御拂込被下度候也

一、振替貯金へ會費其他御拂込の節は同拂込通知票裏の通信欄へ其費目等の區別をなし必ず御記載相成度候也

大正四年五月

東京市本郷區湯島

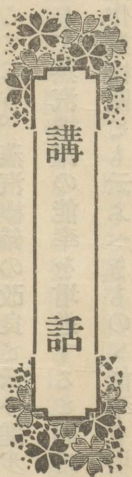
東京女子高等師範學校内

櫻蔭會事務所

振替貯金口座六五八九番

櫻蔭會々報

第四拾壹號



森先生の御話 (大正四年四月、入學式後講堂にて。)

○能率の増進を、學科研究上に應用すべきこと。

森 岩 太 郎

近來世間に能率の増進と云ふことが盛に唱へらるゝやうになりました。殊に實業社會に其聲が大きくなつたやうであります。今私は此の能率の増進といふことを吾々の學科研究上に應用して見たいと思ふのであります。全体能率といふ語は工學上の術語にて英語の Efficiency を譯したるものにして其の意味は一つの原動力ありて之が或仕事を爲したるとき其の仕事の原動力に對する比であります。例へば普通の石炭一斤を燃焼せしむれば約四千六百「カロリー」の熱を生ずるものにして一「カ

「ロリー」の熱にて三百七十八貫目のものを一尺の高さに擧ぐることを得る故普通の石炭一斤を燃焼せしめて生じたる熱を残らず利用すれば三百七十八貫目の物を四千六百尺の高さに擧ぐることを得るものでありまして、この仕事は随分大きなものでありますが、實際爲し得る所の仕事は之よりも遙に少きものであります。それは火力の一部は煙突より逸出する所の空氣を熱するために少しも働きをなさず、又他の一部は或は輻射により或は傳導によりて空しく消失し、或は一部は石炭中に含まるゝ蒸發物を蒸發せしむるために消失し、其餘が汽罐内の水を熱して蒸汽となすのでありますが、其の又蒸汽が膨脹して仕事を爲したる後、尙多量の熱を有したるまゝ空氣中に排出せられ、又其の生じたる動力を帶革其の他の方便によりて之を工場へ送る間に、或は音響となり或は摩擦熱となりて其幾分を失ふものであるゆゑ、實際有效に働く所のは石炭の含有する所の一小部分たることは容易に想像されます。能率の増進とは是等無益に消失する所のものを成るべく少くして之を有效に使用するといふことなり。蒸汽機罐の改良と云ひ進歩と云ふは畢竟此の能率の増進に外ならず。さて一方には斯くして蒸汽機罐の能率を増進すると同時に他の方に於ては之を應用して仕事をなさしむべき機關所謂作業機關とも云ふべきものゝ能率を増進せしめざるべからず。作業機關にして不完全なるときは折角増進せしめたる動力を無益に消費するものなり。今之を實例につきて説明すれば従來の炭素線電球は一燭光につき三「ワット」半電力を要したるに「タンタラム」、「タングステン」、

「オスラム」等金屬線電球が作られて電力が半分以下で事足ることになりしが其の後窒素電球が作られて一燭光につき僅に半「ワット」の電力を要することとなり之を炭素線電球に比するに約七分の一の電力を要するのみ。そこで一馬力の蒸汽機關にて電氣を起すとすれば炭素線電球なれば十燭光のものを僅に二十二個のみ點燈することを得たるに若し窒素線電球が完成したる曉には同じ一馬力の電力にて十燭光のもの百五十個點火することを得べし。加之尙進歩して螢光の如く熱なき光を作ることを得たならば雷に安全なるのみならず同じ一馬力の電力にて右に數倍又は數十倍する光力を得せしむるやも計られず。

以上述ぶるが如く一方には動力を起すべき發動機關の能率を増進せしめ他の方に於ては之を應用して仕事をなさしむべき作業機關の能率を増進せしめ兩々相俟ちて始めて其の效果顯著なりとす。今之を學科研究上に應用するも同じ道理なり。

人は客觀的方面より見れば一種の發動機關の如し。其の日に攝取する所の食物は蒸汽機關の燃料たる石炭の如し。蒸汽機關は石炭の燃焼によりて其の動力を起すが如く人は其の食物の化學的分解によりて其の活力を生ずるものなり。吾々が健康維持のために日々攝取する所の食物所謂保健食物なるものは其の人の性狀に應じて一定の蛋白質脂肪含水炭素を含有せざるべからず。而して是等の物質が體內に於て化學的分解を起すや一定の熱（一瓦につき蛋白質及含水炭素は各四、一「カロリ

「脂肪は九、「カロリー」を生じ其の熱の一部は體温の保持内臟諸機關の作用に消費し其餘を以て吾々は外部に向ひて或は筋力となり或は能力となりて作用するものなり。されば吾々の能力には一定の制限ありてそれ以上には決して作用すること能はず。吾々が事物を研究するに當りては之に全力を注ぐも尙且不足なるを感ずるにも係らず吾々が學科研究のために使用する部分は實に全能力の一小部分にして多くの部分は各種の方面に於て無益に消費せらるること蒸氣機關の比にあらず。就中最も著しく消費せらるゝは情緒の發動にあり。殊に婦人は情緒の發動強きものなれば之がため能力の消費せらるゝこと一層大なるものなり。情緒は其の種類によりては有益にして徳育上缺くべからずと難も下等のものに至りては知力の作用を妨害する外何の用をもなさず。例へば恐怖の如きは常に知力の作用を妨害するのみならず身體上にも其の影響を及ぼすものなれば務めて其の發動を防止せざるべからず。平生些少の事をも甚しく心配し或は絶えず何事か心配するは實に無益のことなり。試験の成績などを非常に心配する人あれども謂れなきことなり。常に何事も細心注意して最善を盡すべし。然るときは人に對しても己に對しても毫も耻づることなく其の結果につきては満足して可なり。次に悲哀の如きも誰も好み起すにはあらで悲哀すべき境遇に在るとき起るべきものなれども之が發動を防止し又は少くとも之を軽減することを務めざるべからず。婦人の神經衰弱症に罹るもの多きは知力の過勞のみにあらずして多くは情緒の過激なる發動に原因するが如し。忿怒の

如きも甚だ有害なる情緒なり。此の情緒は之を行爲に發すれば快樂となれど之を抑壓する間は苦痛なれば其の間は知力の作用を妨害すること少からず。其の他嫉妬怨恨等知力の作用を妨害するもの枚擧に遑あらず。尙茲に附加すべきことは發動機關の能率を計算するに當りては其の運轉中に起るべき破損及其の修繕より來る損失を算入せざるべからざることなり。殊に人體は甚だ精巧なる機關にして其の一部に少しの調和を失するときは忽ち全體の作用に影響するものなれば日常其の邊に注意すること肝要なり。

右の如くして心力の浪費を避け發動機關として能率を増進せしむると同時に作業機關に相當すべき學科研究の方法をして成るべく有效ならしめざるべからず。換言すれば最小の努力をなして最大の効果を収むることを務めざるべからず。此の事は半は吾々教授者の責任にして半は學ぶべき諸君のなすべき事なり。學生を最短にして且最も平坦なる道に導きて眞理に到達せしむるは教授法の秘訣なるが學生は之に應じて成るべく其の能力を有効に使用して學科研究上無益の努力をなさざること務めざるべからず。之をなすには其の方法種々あれども何れの學科にても最も大切なことは毎日學びたるものは必ず其の日に整理することなり。若し日々授かりたる所を少しにても等閑に附するときは一週間又は一ヶ月の後には雜然堆積して非常の努力を用ふるも容易に整理すること能はざるに至る。況や之を學期の終まで蓄積し試験間際に至りて俄に整理せんとするも勞多くして其の效

少かるべし。殊に數學の如く前に學びたる所のものを以て後の眞理を推理する學科に在りては學ぶ所のものを其の都度整理せざれば次に教授さるゝ所を了解すること能はざるなり。以上は能率の増進を學科研究上に應用して其の効果を多からしめんとする希望に外ならず。若し諸君の勉學上聊にても參考となるべきものあれば幸之に過ぎず。

少かるべし。殊に數學の如く前に學びたる所のものを以て後の眞理を推理する學科に在りては學ぶ所のものを其の都度整理せざれば次に教授さるゝ所を了解すること能はざるなり。以上は能率の増進を學科研究上に應用して其の効果を多からしめんとする希望に外ならず。若し諸君の勉學上聊にても參考となるべきものあれば幸之に過ぎず。

本會記事

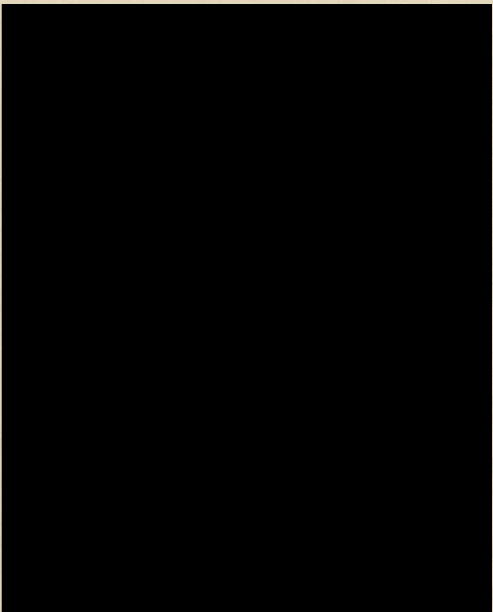
○新入會員懇親會記事

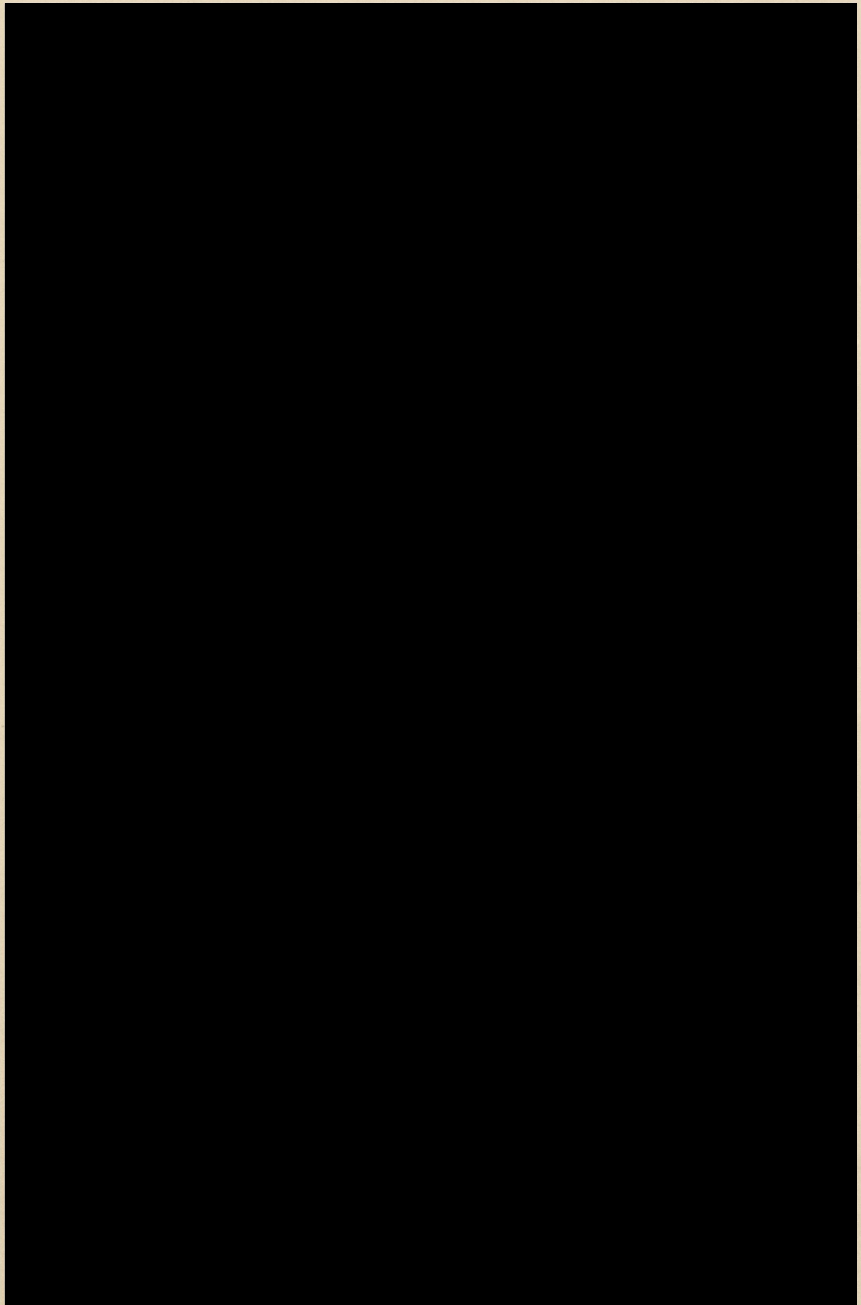
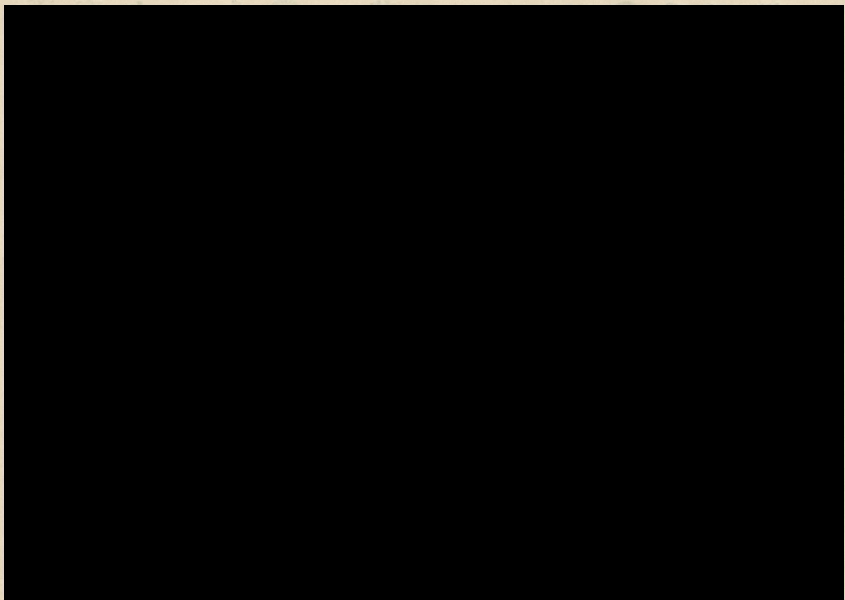
○大正四年三月廿二日春季皇靈祭新入會員懇親會を上野精養軒に開催す。その次第左の如し。

- 一、開會 午後二時
 - 一、入會挨拶
 - 一、餘興 講談 二席(貞水)
 - 一、會食 午後五時
 - 一、散會 午後八時
- 當日の出席人名左の如し。

- 客員
- 岩川友太郎先生 林 こう先生 西村萬壽先生
 - 岡田 秀先生 乙部孝吉先生 吉田熊次先生
 - 中川謙二郎先生 中島力造先生 永井道明先生

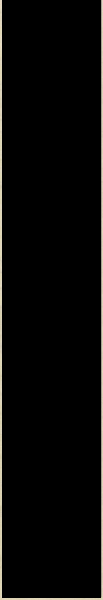
- 中村 コウ先生 矢部吉禎先生 横山榮次先生
 - 三宅 秀先生 平田敏雄先生
- 會員





○主事會及協議事項

○大正四年二月一日午後五時より。出席者塚本



報告

一、の兩氏評議員を承諾

せられたり

協議事項

一、本事務所新築落成に就きて發行する繪葉書に文字を入るゝか如何意匠中には文字を入れざる事

一、今回推薦すべき客員左の如し



て母校に幻燈其他諸器械を寄附せしに二年六月十八日付を以て賞勳局總裁より賞狀に添へ銀杯一個下賜せられたり

一、前回に於て客員に請ふ事の交渉を引受られし佐方主事より同氏引受の小林、岡田、垣内、の三先生御承諾ありたる事の報告あり

一、故福田米子先生の爲め紀念品を寄附したしとて金貳拾圓遺族の方より寄贈せらる

一、千葉安良氏より金十圓學費貸與金の中に寄附せられたり

協議事項

一、三月廿二日新入生懇親會に付協議する事左の如し

午後二時半 開會

全 三時 貞水講談

全 五時半 食事

會費 壹圓五十錢

報告

一、大正二年本會員有志者より總代佐方氏を以

時 日 三月二十二日
場 所 上野精養軒
開會時刻 午後三時
餘 興 講談二席

○大正四年三月一日午後五時。出席者

回答 三月十八日中

一、評議員沖野筆子君評議員辭退届出の處本年總會迄現今の儘となす事とす

一、地方より來四月に文科一年に入學許可となりし者學資借用の件會員中より申出ありたれど事情は察すべきなれども許せば限りなきを以て許可せざる事に決す

一、來る十一月より三週間許本校にて家事科の講習會ある計劃なれば櫻蔭會にては階下六疊階上六疊の二間六人位を限りとして宿泊を引受くるも可なる事に定む

一、本會舊事務所は佐方氏の名義にて登記せられ居れば今回社団法人櫻蔭會の所有に登記し直す事とし無償贈與の形式にて登記を濟せば登記料千分ノ六十を要するを以て豫算外の該金額支出の件を評議員會にはがる事會日は來る十一日(木)午後五時よりとする事

報告

○大正四年四月十二日午後五時より開會出席者

一、寄宿舎にはもと二名の寄宿生ありしが四日より本日迄に七名の新入者あり尙三名の申込ありて不日入舎の筈なれば之にて定規の十二名満員となりし譯なりとて佐方氏より報告あり

一、舊事務所無償贈與登記の件に付笠原文太郎氏代理來會書類一切作成せられたる事を報告す登記手續は明十三日に取斗ふ事

協議事項

一、寄宿生を許可するに就き撰定方法は會員の紹介申込順を本体とする事但特別の場合には(余り人物品性等の著しき懸隔ある人)後を先にする事あるべきも先づ申込順に入れ置き場合により斷る事も有るべき事とする事

議長 千葉君 書記 安川君

一、前回記事朗讀あり
報告

一月の主事會にて決定したる事につき報告あり

(一)柴宮先生謝恩金は雑誌掲載通り取運びた

り

(二)裝飾品購入につき野口先生に御世話相成
りたるに付御禮に出たり

(三)評議員缺員につき伊藤氏三宅氏に御依頼
御承諾を得たり

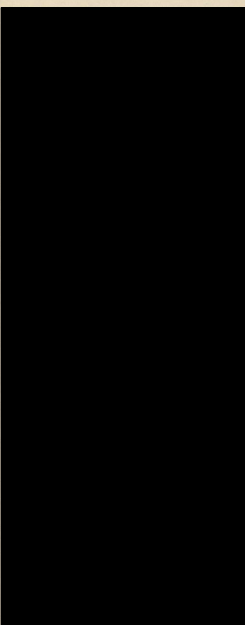
(四)新築紀念繪はがき其後岡田秀先生に一切
を御依頼し今日出来したり

(五)新たに客員を左の先生に請ひたり

小林照明先生、岡田秀先生、垣内松三先生

(六)本年十一月講習會開會に付當事務所に宿
泊せしめらるゝ人員五六名引受らるゝ事に

○大して佐方氏より校長へは申出てありたり



一、寄宿生を大學講演其他の講演等に伴ひ行く
事又時々新聞中肝要なる處を話し聞かせ讀み聞
かせ等する事、寄宿舎に時計振鈴買入れの事
一、無償贈與證書の日附は本年三月十一日とす
る事
一、笠原氏に謝禮の事
一、寄宿生十二名に達したるにより本月より舎
監竹野せい子氏に會より謝禮定規の通り金貳拾
圓を呈する事女中には以前通り引續き五圓を給
するは勿論の事

○評議員會及協議事項

○大正四年三月十一日午後五時より例會を開く

(七)福田米子先生御逝去につき菊池氏より金

二十圓御寄附ありたり

協議事項

(一)元町寄宿舎の所有權は從來佐方氏會の代

表として所有せられたれば今回法人として

櫻蔭會の所有として登記し直す事につき其

の無償贈與の形式としての登記料金額支出

の件

右は全く臨時の支出として可決す

(二)右一切の事は土取氏より笠原氏に依頼す

る事に可決

(三)掛軸表装代金六十圓を要せり右は今年度

器具費中より支出し不足は臨時費より支出

する事としたれば承諾ありたり

(四)入會懇親會の余興費凡そ十圓支出は他の

集會費中より支出の事としたり(諒闇中に

て余興費なければ)

(五)福田先生御寄附金の費途如何

西洋間の裝飾品とする事に可決

右例の通佐方、後閑兩君に購入一切を御依

頼する事とす

(六)當事務所に寢具を調製し置きては如何

右は來七月の豫算編成の際之を計上して會

議に付する事に決議す

一、佐方氏より御報告

武村先生より御寄附の幅は一は吉野一は龍田

の景にして母校として最も御因縁深き照憲皇

太后陛下吉野行啓の御行在所の御あとを寫し

奉りたるものにて特に御揮毫下されたるもの

ゝ由にて佐方氏鎌倉なる先生御宅に御禮に御

出相成りたる由御報告ありたり

右にて閉會八時半

○事務所日誌摘要

○大正四年一月二十一日(木)

東京女子高等師範學校彙報

職員移動

授業囑託 (大正四年三月卅一日マテ)	吉永秀	授業囑託	竹田みち
命休職	岩上りう	講師囑託	小野竹三
解講師囑託	脇水鐵五郎	依願解囑託	佐伯外浪
免本官	加藤節	解囑託	神中糸
任教諭	安達孝	解囑託	波佐谷美知
同前	津田福	任助教諭兼訓導	吉田キク
任教授	安川あい	任助教諭	矢島千代
依願免本官兼官	根本政衛	任訓導兼助教諭	本多ヤヨヒ
依願免本官	樹下悌	任訓導	水谷年惠
兼任助教諭	山本幸雄	任保母	伊藤梅
任助教諭兼訓導	上野順	任訓導	福島ロサチ
任兼助教諭	鈴木すすみ	解囑託	鈴木なみ
講師囑託	ヘレンボトド		

○福田元當校舎監の逝去

大正四年一月十五日、元當校教諭兼舎監福田米子氏死去に付、葬儀當日中川校長より左の弔辭を送

らる。

大正四年一月十五日福田米子女史遠逝せらる女史は明治六年職を東京女學校に奉じ後十年二月同校の廢止せらるゝや又東京女子師範學校助訓に任せられ爾來累進して教諭兼舎監に至り明治三十四年十二月老を以て職を辭す女史の在職二十九年の長き其の間恰も一日の如く常に力を生徒の訓育に盡し勤儉範を示し温讓人に接す故に生徒の之を敬慕すること赤子の慈母に於けるが如く其の薫化の徳蓋し大なりと謂ふべし今や其の訃に接し痛悼の情に堪へず茲に謹んで弔辭を呈す

大正四年一月十九日

東京女子高等師範學校長 從四位勳三等 中川謙二郎

○陸軍記念日講話

三月十日陸軍記念日に付附屬小學校にては午前十一時より陸軍士官學校教官伊藤歩兵大尉殿、本校養成所附屬高女にては午後一時より陸軍砲工學校教官石井砲兵中佐殿の講話ありたり。

○謝恩會及送別會

三月二十三日午前十一時より謝恩會あり。引續き送別會を開催す。

○送別會の記

紅霞綠柳の春は未だ至らざれども數旬の窮蔭變じて春風除ろに渡り萬物色を起し影を新にして春の

文科 三年生

榮は一層の壯嚴を吾人の上に加へ春の扇將に開かんとする三月二十七日われらは近く卒業の榮と共に一層嚴肅なる人生の實社會に舟出せられんとする雄々しの人々のために且つは年頃の名残を惜しみ且つは前途の祝福のためにとて此に送別のまどゐを開きぬ時に午後二時雨雪靜かに下りて世は漸く暗澹たらんとす當日會の順序左の如し

- 一、入 場
- 一、開 會 の 辭
- 一、みが、すば
- 一、送 辭
- 一、校長先生の御話
- 一、贈 物
- 一、謝 辭
- 一、先生の御話(吉田先生)
- 一、先生方唱歌(卒業生を送る)
- 一、唱歌感謝(卒業生)
- 一、茶 菓

- 一、談 話
 - 一、オルガン獨奏(卒業生有志)
 - 二、唱歌ゆきませ
 - 一、ピアノ獨奏(卒業生有志)
 - 三、談 話(一年生)
 - 一、唱歌(別れの鳥)
 - 一、退 場
 - 一、會 食
 - 一、自 由 談 話
- 別れの鳥を最後として一同會場をいでられ食堂へと歩を運ばれぬここには例年の如く校長先生始め諸先生方と會食を遊ばす今更に恩愛のいと離れ難きを思はれし事ならむ食後は自由談話にて或は七八人或は十人と日頃御親しみ深き先生方のもとに椅子を移されてピンポンカルタ家族合せ等と幼なき遊びに一層の名残を惜まるゝものの如く嬉々としてむつみあひ夜の深くも知らざりしが、時の鐘遠く響き渡ればうらみはつきねどやがて會を閉じて一同場を出られぬ今夜の夢否今後幾夜の夢か今宵のまどひを見たまふ事ならむ各の胸は無量の感慨に充たされし事ならむあゝ吾人は小

なりされど大なる事業のために自己を没する時に於て獨り大いなるを得るなり思へは世にも幸ひ多き今宵の客人がゆくてかな世に偉大なる事業多けれども教育宗教等の如き精神的事業を措きてその右に出づるものまたあるべしや世界の偉人釋迦孔子キリスト等は皆教育者に非ずして何人ぞやかくも偉人の多くを生める我教育社會尊嚴無比絶大の價值を有せる育英の道に近く携はるべき今宵の客人達に希くはこの事業のために自己を没して最善をつくされん事をこれやがて大いなる吾に生くる所以にはあらざるべきか、また云ふ自己の小なるを恐るゝことあらざれ、世の至大なるものは至微の積集にあらずや吾人の處世唯至誠あるのみ至誠にして動かざるものは未だこれあらざるなりと希くは時と所とを問はず常に真我を披歴して事に當り正しきに志して久しきに亘り以て其の任を全うせられん事を言はざる能はずして此の言あり幸に諒とせられよ。(文科三年生)

○卒業證書授與式

三月廿七日午前九時三十分より舉行す

- 一、唱歌、校歌「御下賜御歌みが、すば」(總員起立)
- 二、卒業證書授與
 - 本校本科卒業證書授與
 - 本校研究科修了證書授與

本校選科卒業證書授與

第六臨時教員養成所家事科卒業證書授與

附屬高等女學校専攻科卒業證書授與

附屬高等女學校本科卒業證書授與

- 三、唱歌「おもへばはてなき」
- 四、校長告辭
- 五、文部大臣訓示

祝 辭

東京女子高等師範學校並に第六臨時教員養成所本日をして卒業證書授與の式を擧げ我女子教育界又幾多適良の材を加ふ本大臣は深く之を欣ぶ

蓋し女子教育は次代の國民を育成する基礎にして其の隆替は國運の消長に關すること極めて大なり故に苟くも事に斯に従ふものは常に其の任務の重きを自覺し益々智を磨き徳を修め身を以て範を示し之を地方の實情に考へ之を時勢の趨向に照し適實有效なる教育を施さざるべからず況んや現下の時局は我が教育者の奮勵努力を要すること殊に緊切なるものあるに於てをや諸子須らく思を茲に致し其の任務を完うせんことを期すべし

更に東京女子高等師範學校附屬高等女學校卒業生諸子に告ぐ諸子は既に女子に須要なる高等普通教育を受け以て他日良妻賢母たるべき素地を作れり本大臣は諸子が今後本校に於ける修養を基礎として益々徳性を涵養し教育ある女子の本分を完うし以て本校教養の旨趣に答へんことを望む一言を述べて祝辭とす

大正四年三月二十七日

文部大臣法學博士 一木喜徳郎

六、卒業者謝辭

一、本校卒業者總代謝辭

謝 辭

曩に吾等女子教育の任に當らんと志を立てて本校に入りしより以來茲に四年聖代の涯りなき恩澤と諸先生の懇到なる薰陶とにより幸に規定の學科を修了するを得て、茲に本日をして貴實の來臨を辱うし卒業證書授與の式を擧げられ文部大臣閣下並に校長閣下の懇篤なる訓諭を賜はる、吾等の光榮何物かこれに過ぎん。

惟ふに宇内列強の間に立ち日進月歩の趨勢に伴ひ益々帝國の富強を期せんとするには之が根底たるべき教育の事業も亦大にその面目を革新し以てその隆昌を謀らざるべからず、而して教育の効果は

實に徳操と學識とを兼有する良教育者に待つものなればその任務は重くして且つ難しと謂ふべし。抑々昨夏以來歐州戰亂の餘波は遠く東洋に及び我帝國も亦聯盟の義に依りて宣戰せられ皇師一たび動いて敵の東洋に於ける根據地を攻陥し以てその禍源を絶ちたるは洵に快事と謂ふべし、然れども歐州に於ける戰雲は猶未だ收らざるのみならずその勝敗の如何に拘らず將來我が帝國の内外彌々多事にして負擔の益々重大なるべきは言を俟たず、然してよく百般の事業に雄を角して帝國の國威を宇内に宣揚するに足る第二の國民を養成すべきは係りて教育者の双肩に在ることに想ひ例ればその責任の更に大なるを感せずんばならず、今や吾等短才薄徳の身を以て出で、此の重任に當らむとす豈戰兢の念に堪へむや、然れども、聖諭の御旨趣を奉體し大臣閣下並に校長閣下の訓諭を服膺し刻苦勵精孜孜として怠ることなく終始一貫以て斯の道に盡瘁せば庶幾くは所期の幾分を達し鴻恩の萬一に報い奉るを得ん

謹みて所思を述べて謝辭とす

大正四年三月二十七日

東京女子高等師範學校卒業生總代 坂 たまき

二、第六臨時教員養成所家事科卒業生總代

今日第六臨時教員養成所は文部大臣閣下及貴賓の御來臨を辱けなう致しましてかくも盛大なる卒業

證書授與式を御舉げ下さいました事は私共一同誠に光榮と存じます。

私共がかかる光榮に浴しますのも偏へに此所に入所致しましてから三年の間常に管理者閣下及諸先生の嚴肅なる薰陶と懇篤なる教養との賜に由る事と存じまして感謝の念胸に溢るゝ様に存じますのに更に只今は文部大臣閣下并に管理者閣下より訓諭を賜りまして誠に感激の情に堪へません。

私どもは日頃の御諭に依りまして教育は國家の盛衰に關する事が重大であります事は深く肝銘致して居りますが特に家事教育は女子教育中主要なる任務を有し延いては國民生活の實際に關係致しますので短才微力の私どもが能く此の大任を全うして諸先生の御教へに答へ奉る事が出来ますかと私に懼るゝのでございます。

只私共は、聖上獎學の叡旨を體し奉り且本日賜りました訓諭と平素の教示とを服膺致しまして力の有らん限り専心其職に盡くしせめて、聖恩の萬分の一に對へ奉り併せて師恩の一端に報いまつたいと存じます。

茲に第六臨時教員養成所卒業生一同に代りまして謹みて謝辭を申し上げます。

大正四年三月二十七日

第六臨時教員養成所卒業生總代

御館 たくす

三、附屬高等女學校本科及專攻科卒業生總代(口頭)

七、唱歌「はてしなき」以上

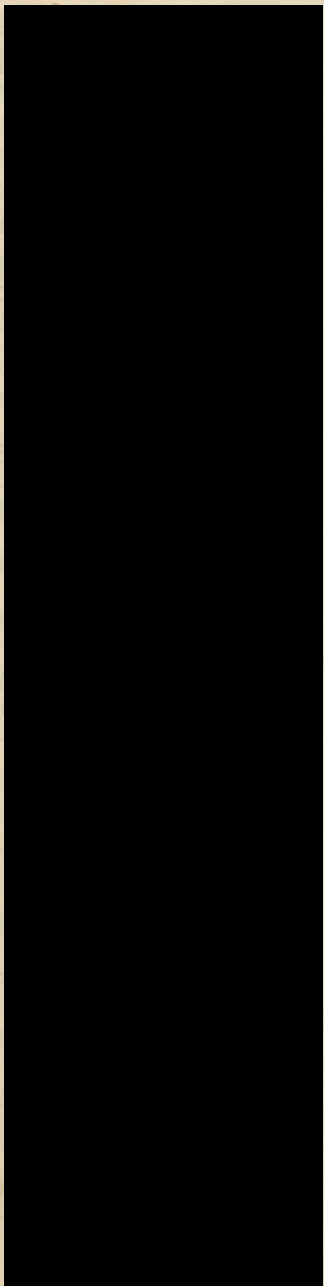
東京女子高等師範學校第二十六回
第六臨時教員養成所第三回

卒業生氏名表

(大正四年三月二十七日)

- 一、卒業生本校にては文科第一部二十二人文科第二部十三人理科第一部十六人理科第二部十二人技藝科第一部二十一人技藝科第二部七人外に研究科一人選科一人合せて九十三人なり附屬高等女學校にては本科八十二人專攻科第一部六人同第二部七人同選科二人合せて九十七人なり第六臨時教員養成所家事科は本所五十五人京都府立第一高等女學校委託生十二人私立東京裁縫女學校委託生七人私立共立女子職業學校委託生十一人私立和洋裁縫女學校委託生二人、合せて八十七人なり、其の氏名(いろは順)等左の如し

○研究科修了者



○昭憲皇太后御一周年祭儀式

大正四年四月十一日午前十時より左の通り舉行

- 一、本校及附屬校園生徒兒童幼兒着席
- 二、職員 着 席
- 三、校長 臨 場
- 四、禮
- 五、昭憲皇太后御影を拜す（一同最敬禮）
- 六、校長 式 辭

維れ大正四年四月十一日

昭憲皇太后御一周年祭に當り全員を會同し度みて哀悼の微忱を致す

恭しく惟みれば日を経るに隨ひ坤德彌々廣大慈惠益々深厚なり往事を追懷すれば悲痛の念に堪へず然りと雖今にして洪恩に奉ずる途唯一あり全校の師生克く努力して女教の美果を蕃結せしめんこと是なり庶幾くは諸子ますく徳を磨き業に勵み以て叡旨に答へ奉らんことを

大正四年四月十一日

東京女子高等師範學校長 中川謙二郎

七、禮

校長職員以下順次退場

以上

○入學許可式

大正四年四月十二日午前九時より講堂に於て、本校並養成所本所及委託生入學許可式を舉行し、式後森教授の講話ありたり。

○大正四年度入學者氏名左の如し。

東京女子高等師範學校大正四年度入學者（イロハ順）

（大正四年四月十二日午前九時入學許可式）

通信

○附屬寄宿舎より

竹野せい

會員諸姉の思ひ出多き元町の舊事務所は今や雪月花の三室に十一人の舎生嬉々として所定の時間に
従ひ起臥、飲食、勉學を共に致し居候間こゝに實況の一端を誌し申候

一、舎生の現今通學せる學校及出身校

附屬高女專攻科

佐賀縣唐津高女

全

群馬縣桐生高女

全

栃木縣足利高女

全

長崎縣佐世保高女

第六臨時教員養成所委託生

新潟縣高田高女

保姆實習科

愛知縣名古屋高女

大成學館

山口縣山口高女

全

山口縣下關高女

全

兵庫縣姫路高女

渡邊裁縫女學校高等師範科

京都府福知山高女

女子職業學校高等師範科

愛知縣名古屋高女

但し今一人にて定員に滿つること、相成申候

二、舎生の生活狀況及舎の會合

朝五時起床の鐘と共に身仕度を急ぐ者掃除を始むる者など有之候、食事當番は食卓を整へ六時半の
鐘にて一同食堂に集り互に朝禮をなし食事を致し申候食後當日通學の前後に立寄るべき先を申出で
しめ許否を決し申候然る後それ〴〵登校準備を致し居候
午後三時のお茶には一同の集合は期し難く候へ共菓子果物等一週四五回は夕食後より此時をど望む
者多きまゝ一般家庭と同様に致し居候六時の夕食は一同の最も樂しき時にて色々見聞せし事と互に
語り合ひ居候又舎生に注意すべき一般的の事項は此時に話す事に致し居候につき運動時間を談笑の
裡に過すことも有之又廣き芝生にてクッドリール、ランサス等の方舞を致すことも輪なげ目かくし
など致すことも有之候雪月花各室の花壇（芝生の彼方の）手入も此時に當番が致し居候御承知の通
四邊物靜かなる地とて午後七時より九時までの黙學時間には電車の響のみ聞え申候黙學後一同食堂

に集り簡單なる養氣體操をなし就褥の挨拶を終へて一同各室に歸り九時半就寢仕居候序に食事は前以て差し出す食事當番(一週二名)の献立表を元として下婢に命じ居候

献立表 五月八日ヨリ

五月二日	朝 味噌汁 芥子漬	晝 竹の子 甘煮	夕 鯛てり焼 汁(ねいれ)	間食 ビスケツト
五月三日	味噌汁 うぐいす豆	はぜ佃煮 海苔卷すし	ライスカレー (牛肉、玉葱、馬鈴薯、人参) 浸物ほうれん草	片瀬饅頭 遠足ノ土産
五月四日	味噌汁 焼海菜苔	卵焼	はんべん付鱈汁 汁(みらす干ば)	なつみかん
五月五日	味噌汁 すまし汁 さくら味噌	油揚げ煮付 鹽昆布	皐月汁(竹の子) 露、干鰯、蠶豆 豆腐酢の物 (烏賊、茗荷)	かしわ餅
五月六日	味噌汁 吹寄漬	甘竹の子煮	鱈鹽焼 白あへ(こんにやく)	やきいも
五月七日	味噌汁 生卵	なまり煮付	カツレツ(豚) ネーブル しらす干	
五月八日	味噌汁 ぜんまい煮付	ふさや碗豆煮	壽汁(竹の子椎茸、干瓢、海苔) 卵焼(鯛)	大鹿の福 鹽せんべい

髪洗、押入の掃除は隔週の土曜日に洗濯は隨時致し居候

會合は土曜日夕食後とし

第一 讀書會 詩文の誦朗讀又新紙に載せられたる時事問題の研究

第二 修養會 諸先生及會員の來舍を乞ひて修養上の談話を承ること及舍生修養上の感想談

第三 自由

第四 親睦會兼音樂會

四月中には佐方理事の來舍を得て御高話承り申候

日曜日には何所か適當なる場所に於て然るべき講話あらば希望者と共に參ることに致居候此程は大に兒童學會有之兒童と食物及菓子といふ面白き研究題有之候ひしかば參り申候其他は知人の訪問又は買物に出掛け申候

散歩遠足は時宜によりて致すこととし先月中は上野公園に夜櫻をめでたると靖國神社の臨時大祭に參拜致したるにて候

三、舍風及其他

創立以來日尙淺くいまだ舍風として申上ぐるほどのものも候はねども舍生一般の氣質は温厚にして眞面目なる者多く候へば互に禮讓を重んじ和氣霽々たる裡に勉學致し居候私も日々大に若返りたる

心地して元氣溢るゝ舎生と事を共にし些かなりとも舎生の人格を高め其前途に多くの光明を認めしめんと勵み居候へば御安心下され度候
實に今日一同のまづ充實したる生を營むを得申候は全く理事主事達の深き御注意の賜たることは申すまでも御座なく候も亦舎生の人物よろしきを得たるにも因ることゝ存じ御紹介の勞を採られ候會員諸姉に深く感謝致しおき候終りに臨み會諸姉にはこの産聲を揚げたる寄宿舎の健全なる發達を遂ぐる様御尊暇には舍を見舞はれ種々御驗經談をはじめ御注意など御聞かせ下さることを切に希望仕り置き候(五月五日)

○澁谷の里より

田中ふさ

拜啓何等新らしき研究も感想も之れ無候が久しく御無沙汰致し候まゝ近況申上べく候芝公園なる幼稚園にて幼兒相手に楽しき日を繰り返し居り候事は舊の如くに御座候御蔭にて病魔にも襲はれず年波のよりくるのも忘るゝ様覺え申候中には以前世話致せし幼兒の己に一家の父となり母となり更らに其子供の保育をも托され或は自ら園へ來られ當時の事とも相語らひて互に今昔の感に打れ申候事も之れあり候三年前住居を中澁谷に移し候爲め毎日此の地より昇園致し無邪氣なる幼兒の氣分に接しては歸り來り蔬菜草花の手入など致し居り申候場所は道玄坂を南に入りたる處にて市街のごよみと共に揚雲雀の聲を聞く事を得又隣地との境界の土手には薄、檜、櫟、などありて武藏野の面影

の僅に残り居るも面白く土臭いと申してあまり感心致されぬ土の臭もうれしく庭の片隈なる菜の花も西洋の草花よりは却て風情ある様に思はれ申候夏の頃は南瓜の花も大きく咲き申候或る人の「コスモス」は都會のハイカラの婦人の如く南瓜の花は田舎の無骨の女の様なるなど申候がコスモスの如き婦人のみ増加致しては如何やと思れ候

澁谷も日に月に膨脹發達致し上古此のあたりは江海に濱し澁谷は鹽谷の里と申して鹽やく里の轉化し來りたるもの又土中若干尺の下よりは昔時の海底の土砂出てるごか武藏風土記などに見え居る由に候此れよりして所謂武藏野の一端となり薄や月の名所と相成り今日に至りたるもの由に候大正二年度調査人口表に據れば本町は人口六萬二千六百人を算し全國町次の第一位に居り静岡甲府などよりは遙に優勢の趣きに候何と申せ新開地の事とて萬事雜然たる狀況にして拙宅の四隣には連日手斧の音忙しく雜木林の丘陵は何の間にか新らしき斷層面を露はし大小貴賤の家屋は簇々として築造さるゝと云有様に候

斯の如く長足に發展せるも素より廣き里の事とて猶數年間には都に近き郊外生活の適地たるを失はずと存せられ候何か取り留めも無き事ごも申述失禮御ゆるし下され度終りにのぞみて會員皆々様の御健康を禱り上候(大正四年五月三日)

○編輯掛より

○主として宮城縣角田郡立高等女學校一會員といふ方に

先日宮城縣角田郡立實科高等女學校が類焼の災を蒙られました爲め、本會員中二名、公務のため多大の損害を受けられた方があるさうで、誠に御同情申し上げます。それに就いて同校の一會員といふ御方から御親切な有益な御忠告を、本會に御申し越し下さいまして、本會では誠にありがたく存じてをります。しかし御書簡に御署名がございませぬために、御返事を差し出し兼ねてをります。どうか此の後とも本會にいろいろ御注文その他御申し越し下さいますことは、御差支へのないかぎり御記名にて御通信下さいますやうに御願ひ致します。右主事會の申し合せによつて一寸申し上げます。

大正四年五月十四日印刷
大正四年五月十七日發行

東京女子高等師範學校構内

發行所 櫻 蔭 會

振替貯金口座六五八九番

前 同 所

編輯兼 發行 者 黒 川 龍

印刷 者 畑 桂 之 助

前 同 所

印刷 所 廣 業 館

電話 下谷五五七番

東京市神田區旅籠町二丁目十二番地

大五四年正月十日發行
大五四年正月十四日印刷

發行所 櫻蔭會

東京文子高橋町御蔭會

電話金口五八六番

●院長 診察 月、水、木、金、午前

●林、峰間 兩副長は目下當院に在勤

麴町區三番町三十番地(市ヶ谷見附内)

電話番町六二番

東洋内科醫院

院長 醫學士 高田 畊安

電話ちがさき二番

南湖院

相州茅ヶ崎海濱(從停車場半里)

●河野、高橋 兩副長は目下當院に在勤

●院長 診察土曜日午後入院診後應需

拜啓 益々御隆盛慶賀之至りに奉存候陳者當櫻蔭

會雜誌『櫻蔭會々報』は年四回即ち(一、四、

七、十月)發行に有之全國各府縣女子師範學校高等

女學校は申すに及ばず其他各種學校にも配布致居

從て廣告の効力も尋常一様に無之は從來の實例に

徴して明瞭なる所に有之候就ては今後御注文の際

は『はがき』にて御申込被下候はば直に御伺ひ夫々

御取斗可申候間右承引の上多數御申込被下度特に

御依頼申上候 以上

櫻蔭會廣告部

主任 品田 奧松

新刊 通俗學藝叢書 政所三重郎氏著

第三編

第二編

活動寫眞の原理及應用

文學士 權田保之助氏著

定價 壹圓
送料 八錢

や流麗なる邦文に譯されて讀書界に見ゆ。自然科學人文科學の根本的假説に爆彈を投じたる此巨大なる發見と、其學説の發展とは、エネルギー論・原子説・電子論・最近物質觀其他の中心問題を精論して興味津々たり

ラムゼー 元素と電子

新刊中判美本
定價 金壹圓
送料 金八錢
高雅なる裝禱

我二十世紀が開拓せる自然科學界の奇異は、蓋し電子論を以て其最となすべきは、萬人の齊しく認むる所而て現代英國の代表的化學者ラムゼー博士は、電子論發達の書史に自ら其名を記するの人也。此碩學の新著今

第一編 實踐教育上
より見たる

兒童の模倣

文學士 福島政雄氏著
定價 壹圓貳拾錢
送料 八錢

圖書目錄
往復ハガキにて
申込次第送呈

東京市日本橋區傳馬町二丁目
內田老鶴圃刊行

振替口座東京
壹貳壹四六番
電話番號浪花
壹參參五番



旅行に散歩に外出の多い昨今、千代田ホマドの賣行激増

千代田ホマドの特色です

風に乱れず埃に汚れず
髪から髪へ常も
結び立の美しさ保つが

定價 三十錢
送料 八錢



千代田ホマド 總本舖
山岸三之助

東京市日本橋區馬喰町四丁目
振替東京 〇五〇番

洋傘と夏帽子!

何店にて御求め遊されますか!?

品も揃ひ、直段も安き松屋にて御試み願度く

取り分け御徳用の

洋傘 均一品

甲斐絹 金二圓
西陣 金二圓五十錢

を提供致し候間何卒御來遊の程奉待上候

東京 今川橋

松屋呉服店

兒童用運動服
春より夏へかけて發育上衛生的理想の服にして着脱輕便地質は洗濯に堪へ水陸の遊びに最も適す



歳	號別	キヤリコ	イタリヤ	タガル	本ネル	歳	號別	キヤリコ	イタリヤ	タガル	本ネル
十三才迄	並一號	一四〇	一四二〇	一四六〇	二四四〇	五才迄	並五號	一〇	一五	一五	一五
十一才迄	二號	一六〇	一六二〇	一六六〇	二六四〇	三才迄	並三號	一〇	一五	一五	一五
九才迄	三號	一八〇	一八二〇	一八六〇	二八四〇	一才迄	並一號	一〇	一五	一五	一五
七才迄	四號	二〇〇	二〇二〇	二〇六〇	三〇四〇						

丈ケ/品質	色無地	セツパ	シーツ	地
尺九寸五分	一四八五	一四八五	一四八五	一四八五
尺七寸五分	一七五〇	一七五〇	一七五〇	一七五〇
尺五寸五分	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇

送料海外三十錢 内地八錢



實用新案
登録第二三二一七號
ナイトドレス
兼女児一名寝冷知らズ

特約販賣店
三越 東京、大阪、大連
松坂屋 東京、名古屋
白木屋 東京
大丸 京都
桔梗屋 名古屋
各呉服店

寝冷知らずとして海外までも輸出好評を博せるは本ナイトドレスのみなり今や子児を持たるゝ家庭の常備品として一般に變用せられ寝冷の豫防として着脱共に輕便又室内運動着として輕快なり

はなはな園

化粧液
綠蔭に憩ふ婦人の私語
なくてはならない化粧液なれば使用ふて種よい花園を

定價一個金二十錢
當分の内廣告として同時に六個以上御注文の方へは、ナイトドレス又は運動服御買上の方へは一瓶金十二錢、弊店化粧品部永年研究實驗に依り、外貴婦人様方の御稱賛御推賞に依り、製造し品質本位で佳い芳香を含み、白粉下として白粉の「ノベ」を補給化粧美を倍加せしめ最も長く美を保全し暑さにも寒さにも化粧崩れのをせぬ事は他に見られぬ特長あり、常に愛用せば皮膚を滑らかにし化粧を延ばし自然に色を白くす御試用を願います

女子高等師範
府縣女子師範
全高等女學校
日本赤十字社
ナイトドレス
化粧液花園
製造發賣元
東京本郷區眞砂町七番地

大河内婦人洋服店
電話 下谷五二八
振替口座東京八三七二

年五十來以刊創

婦女新聞

あなにはた？

(定價)一ヶ月(四部)十八錢△三ヶ月五十四錢△半年一圓五錢一年二圓郵稅總て本社持
 (問)あなたのお仕事は何ですか。(答)婦人の方々の幸福を増進するのが私の唯一の仕事です。(問)どういふ方法で婦人の幸福を増進なさいますか。(答)先づ婦人を自覺させます。それから時代に伴ふ知識を與へます。又不幸の境遇に泣いて居られる婦人には同情ある慰安者となり、煩悶して居られる方には親切な相談相手となり。現在幸福な御方には面白いお友達となり、正しい婦人には味方となつて、不正の敵と戦ひます。(問)全体あなたは何方です。(答)婦女新聞と申す週刊新聞です。

東京市牛久区 婦女新聞社 電話番町三〇六番 振替番七〇八二番

地理と家事

最新地理實習

東京女子高等師範學校教授理學士西村馬壽先生 共著
 千葉縣女子師範學校教授論高野松次郎先生

全一冊 (總クローヌ製美裝) 定價 金八拾五錢
 (四六版貳百五拾餘頁) 挿圖壹百拾餘種 送料 金八錢

本書は著者多年研究に成れる地理の實習法を詳細に説明圖解したるものなり現今一般教育界に於て地理は重要な實科にして國運發展の基礎を養成する教科なるにも拘はらず其成績頗る揚らざるは單に乾燥無味なる記載的事項の講義に止り兒童生徒をして自學自習せしむること少きによる。本書は此弊を救はんが爲に師範學校中學校高等女學校及之と同程度の各種學校の生徒用とし且小學校教師の參考用として著作されたるものなり之れによる時は從來の地理教授は一變すべく乾燥無味を訴へたるものも津々たる趣味を感すべく實に地理教育界の一大革新なりと言ふべし

奈良女子高等師範學校教授西田典四郎先生著

中等地理教授要義

全一冊 (總クローヌ製美裝) 定價 金壹圓貳拾錢
 (菊版參百拾貳頁) 送料 金八錢

大日本禮節學會講師石井泰次郎先生著

婚禮千代のかみみ

全一冊 (和版參製美裝) 定價 金壹圓五拾錢
 (菊版參百五拾餘種) 送料 金八錢

本書は斯會の泰斗石井泰次郎先生最新の著にして懇切丁寧に一々圖解を以て説明せられたるものにて殊に諸儀式折紙の圖解に就きて一々先生の自筆朱書を以て其奥書を記入せられたるを以て初學者の自習上便益甚だ大なるべし

大日本禮節學會主任講師石井泰次郎先生撰

一宮中式 諸式折形標本

折方拾種箱入壹組定價 上製(金銀水引紙)實用大金貳拾五圓
 結方五種箱入壹組定價 並製(紅白水引紙)二分一大金拾五圓
 大奉書紙(紅正紙)實用大金拾參圓

一宮中式 諸式紙形標本

拾種箱入壹組定價 實用大金貳圓五拾錢
 雜形 金壹圓八拾錢

一宮中式 諸式紙形標本

拾種箱入壹組定價 實用大金貳圓五拾錢
 雜形 金壹圓八拾錢

◎地理實習用器械目錄

理學士西村馬壽先生撰定 御申越次第進呈

發行所 東京本郷三育社 電話番谷六二〇番 振替番貳貳五貳京東

●營業目錄 御入用の方は東京九段坂吉住商店宛左下方の切抜を添へ郵券貳錢を送れば送呈す

營業 造花材料
 科目 袋花材料 刺繡材料及器具類
 袋物材料 造花半製品及既製品
 細工材料 摘ミ細工材料 造果材料及果實標本

造花材料 造花書籍

●實用造花自在
 一名造花術秘密の鍵
 此書は全く造花の心得なき者も一讀せば直に造花術の秘訣を知り得る様詳細説明せる絶好の書籍なり下に新聞社評の一例を掲ぐ
 ●定價壹圓二十錢 送料八錢

●實用造花圖譜
 此書は瓣、葉、萼等の切型着色及組立を圖示せるものにして花の種類七十一種を掲載し悉く鮮麗なる石版數度印刷の美本也
 ●定價壹圓 送料六錢

●書籍內容見本入用の方は東京九段坂吉住商店宛下の出抜を添へ郵券二錢送れば送呈

四十四年八月七日
 讀賣新聞批評
 吉住春子著
 實用造花自在
 裝飾の流行に伴ふ近時
 漸く珍重せらるる吉住氏
 此機に先づて苦心
 工夫したるもの既に
 名に造花術秘密の
 鍵といふ精巧な
 るべき取以て教
 ばかり取り書に
 盡せり本を参
 花の美しさを
 はのしつゝ造
 なるに附録の
 十三個を加ふべし
 き本云ふべし

櫻蔭會報
 第五月號

東京九段坂吉住商店 振替口座 東京九段坂

五月一日より

夏物大賣出し

夏夜具座蒲團陳列會
 新柄中形浴衣地陳列會

東京日本橋

△白木屋吳服店

果シテ能ク實用ニ適合スル鉛筆ハ何々ゾ

曰ク

地球鉛筆

文部省ニテ發表セラレタル内外主要學用品對照表ニ日本製鉛筆ノ優良品トシテ
推舉セラレタル我社製品ノ特色トシテ誇ルハ

永遠ニ確實ニ品質本位ニ妥當ニ

製造元

東京市牛久保區音羽町三丁目二十番地

エス、エー鉛筆ペン軸會社

電話 國番町三、七八九番
振替口座東京壹壹、六八壹番